

第十堰の補修原案に対する意見及び回答

番号	年齢	性別	意見の内容	回答
1	46	男	<p>1. できる限り既設に近い工法で改修していただきたい。 (1) 平形ブロックは既設部分にも使用されているのでしょうか？目に見える部分(水面下はコンクリート)だけ青石で纏うだけで良いのでしょうか？石の回りには沢山のエビ、小魚が住んでいると思います。平らな構造物にはあまり生息していないように思います。 (2) 青石の間にコンクリートを充填するようになっていますが、既設の青石にも同じことがしてありますか？コンクリート充填することで小魚等は住めませんか？ (3) 袋詰玉石の袋は何でできていますか？破れたりしたときに自然に帰る材質ですか？</p> <p>2. 平形ブロックの接続部分(鉄筋)があると、流れてきた草木、ゴミ等が引っかかり大変見苦しい。壊れない自然にやさしくない構造物を作るより、自然にやさしい構造物を作り壊れたら直せばいいと思います。</p>	<p>1. (1) 過去の災害復旧工事において、コンクリートブロックを使用して堰の保護を行っていますが、平型コンクリートブロックは使用していません。(写真-1, 2, 3参照) 堰の上流側には青石を使用している箇所もありますが、洪水により青石の流失が見られるため、平型コンクリートブロック2tを設置し、個々のブロックを鉄筋により連結します。 また、河川環境に配慮し、平型コンクリートブロック表面に青石を植石します。 (2) 今回の青石張補修方法とは異なりますが、過去の災害復旧工事においては青石の間にコンクリートを充填(練石張)している箇所もあります。(写真-4参照) 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照) (3) 袋詰玉石の袋の材質は、ポリエステルでできています。材質そのものは自然に帰るものではありません。</p> <p>2. 連結にあたってはゴミなどが極力引っかからないよう配慮します。また、洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つような構造で補修します。</p>
2	61	男	<p>上堰、下堰ともに、伝統的な技術を保存、活用する意味でも、青石組で補修することを希望します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照) 下堰の平張コンクリート部については、平張コンクリート表面に突起物を付けると、既設の平張コンクリートに見られるように突起物が再度破損するおそれがあるため、設置せず、コンクリートにより補修します。(写真-5, 6)
3	56	女	<p>補修方法はコンクリートではなく石組みをお願いします。 住民に、支持される方法はコンクリートではないはずです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照) 下堰の平張コンクリート部については、平張コンクリート表面に突起物を付けると、既設の平張コンクリートに見られるように突起物が再度破損するおそれがあるため、設置せず、コンクリートにより補修します。(写真-5, 6)
4	46	男	<p>コンクリートは環境破壊につながる。 もっと水を大事に考えようぜ。 人間が生きていくうえで水が無ければ・・・!</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照) 下堰の平張コンクリート部については、平張コンクリート表面に突起物を付けると、既設の平張コンクリートに見られるように突起物が再度破損するおそれがあるため、設置せず、コンクリートにより補修します。(写真-5, 6)
5			<p>魚道を遡上する魚の保護について 魚道は水深が浅く水量も少ない、そのため遡上している魚を、鳥は容易に取ることができる、このようなため殆どの魚は鳥の餌食になっています。 鳥も生きるために仕方がなく取っているのだが、つまらない鳥に貴重な魚の大半を取られているのは見ていて腹が立ちます。 そこで魚道の上に、金網か漁網を張って頂きたいと思いますが、そうすれば全部の魚が成魚になります、その数は相当のものだと思います、現在の魚道は鳥を養うために作ったようなものになっております。 野鳥保護の人も魚釣りします、魚を食べますから反対はできないと思います。ません。</p> <p>第十堰の修理方法について 昨年は大型台風が連続し日本各地で大きな被害を出しました、これは地球環境がそのよう変化してきたと思えます、第十はもう安全な堰とは思えなくなってきました、この堰は増水時には、妨害物ですから、異常増水にて堤防が決壊寸前になれば堰が破損するのが良いのです、或る大学教授も堰破損がよいと発言しています、 壊れる堰にするため今回の修理は堅牢にしないのが賢明だと思います、度々堰が、台風で破損すれば、県民、県、国も目が覚め真剣に堰を検討すると思います。 現在の第十堰は、根本的な修理をせず、間に合わせ的な破損する修理にする、それは高度な技術を要するかもしれませんが、堅固な修理をすれば、返って大変なことになることを、ご注意ください。 堰の下部の基礎部分は堅固に修理しても良いと思いますが、私のこの意見は異説ですので匿名にさせていただきます、堤防決壊を防止することを主眼とした堰修理の方法を述べたものものです。 堅固な第十堰に修理してしまったら、必ず堤防を決壊させてしまいます、そのことを知って下さい、昨年の台風を無視しないで下さい。</p>	<p>魚道を遡上する魚の保護について ・今回は、破損箇所の補修であるため、魚道については補修を行いません。</p> <p>第十堰の修理方法について ・上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照) なお、既設の青石張と補修工法が違ふ点は、既設の青石張の損壊部分を練石張で施工する点です。 したがって、既設の青石張りと同じように練石張部分以外は従前どおりの構造です。 ・下堰の平張コンクリート部については、平張コンクリート表面に突起物を付けると、既設の平張コンクリートに見られるように突起物が再度破損するおそれがあるため、設置せず、コンクリートにより補修します。(写真-5, 6) ・今回は、破損箇所の拡大を防ぐための補修であり、抜本的対策を伴う意見については「抜本的な第十堰の対策のあり方」を検討する場で検討していきます。</p>

番号	年齢	性別	意見の内容	回答
6	63	男	補修方法は提案の方法でいいと思います。ただし、 ・箇所1の青石張りは、出来るだけ深目地にしてください。 ・袋詰め玉石設置予定箇所は、上向きの流速が出るところです。袋詰め玉石の全体としての密度は低いので、安定性からは平型コンクリートブロックを水平に置く方法に換えるべきです。 流下土砂による袋の摩耗はきつと激しく、したがって耐久性の点からもコンクリート（または巨石）がいいと思います。 ・この機会に、魚道をもつ少しまとまものに改良すべきです。また、下堰上流部に止水矢板などを入れて堰下の浸透を減らし（なくすことではありません）流量の少ないときにもある程度の堰表面を流れる水量を確保すべきです。	<ul style="list-style-type: none"> 極力表面にコンクリートが見えないようにする方法としては、深目地にする方法もありますが、今回の補修では、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。（補修工法参照） 袋詰め玉石は、流水に流されない重量とし、屈撓性があるため、平型コンクリートブロック前面の土砂が洗掘された場合に、河床の形状に応じ変形して流水を適度に受け流し流水から受ける力を少なくすることができ、根固めの役割を果たしますので、平型コンクリートブロックではなく、袋詰め玉石で施工します。 袋詰め玉石は、衝撃及び小石などの摩耗や耐久性に対して十分な強度を持ち合わせたものです。 今回は、破損箇所の拡大を防ぐための補修であり、抜本的対策を伴う意見については「抜本的な第十堰の対策のあり方」を検討する場で検討していきます。
7	45	女	上堰：青石破損流出ヶ所には、木杭で竹を編む構造を前面に設け、水当たり緩和し石間への土砂堆積を促す。 下堰：洪水時に想定される流速、ブロックに働く力（揚力、浮力）から必要重量のブロックを用いるが必要に応じて鉄筋で連結したり、金網で覆ったりする。 理由：コンクリートに頼るより、流域の間伐材や竹、河道内の土砂移動特性を判明する。 鉄は河川や沿岸の生き物への栄養分補給になる。	<ul style="list-style-type: none"> 上堰の補修は、洪水等の影響を受けるため、青石張（練石張）及び平型コンクリートブロックにより、施工します。 下堰の補修に用いる平型コンクリートブロックは、洪水に対して流されない重量とし、鉄筋で連結します。
8	57	男	杭をもっと増やしてコンクリート部分をなくせないでしょうか。 杭の頭部は表面から見えても良いと思います。（杭はコンクリート製でも良いのでは？）	<ul style="list-style-type: none"> 既設の松杭は、十分に杭としての役割を果たしているため、既設の杭配置を参考に補修を行います。また、杭頭が表面から出れば、洪水時も平常時も支障となる他、材質も腐りやすくなるため、従来どおり杭頭は青石張で覆います。なお、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。（補修工法参照） 木杭は、既設使用材料を考慮し、松杭を使用することとしています。
9	55	男	「第十堰の補修原案」に賛成です。 以下、気づいた点について3点程述べさせていただきます。 1. 多分、お考えの事と思いますが今回補修箇所の青石練張箇所と残存箇所の境にはカットオフ（小口止め？）は計画されているのでしょうか？残存箇所は老朽化も進んでいるでしょうし、補修箇所に較べれば相対的に弱点部になるかと思います。多少、見栄えは悪くとも計画されては如何でしょうか。 2. 上流端の平型コンクリートブロック保護の袋詰め玉石の施工範囲はどの位有りますか。十分な範囲のカバーが必要かと思います。（少なくとも2～3列）出水後は堆積していても出水中は相当深く洗掘されているものと思います。 3. 青石練張の基礎に木杭を使うようですが木杭は濁水時も含めて水面下になるのでしょうか。もし、乾湿が繰り返されるようでしたら見えない部分でもありますので使用材料の再検討をされては如何でしょうか。 補修工事は改築工事に比べて制約条件も多く、新旧の施設が混在すること等からご苦労が多いことと思いますが安全な吉野川、よりよい吉野川づくりに向けて頑張ってください。	<ol style="list-style-type: none"> 水の力を受けやすい青石張の上流端（堰の上流部）に平型コンクリートブロックを青石張の補修範囲より、広く設置し青石張を保護するため、既設の青石張との境は、問題ないと考えています。そのため、カットオフは設置しません。 袋詰め玉石は、基本的には1列を考えていますが、現地の河床の形状に合わせて設置します。 木杭は、既設使用材料を考慮し、松杭を使用することとしています。なお、上堰の青石張りの箇所に松杭は使用され、杭としての役割を果たしています。
10	32	女	補修方法はコンクリート中心ではなく、青石組みでお願いいたします。 青石組みの強度に問題があるのではなく、堰に根を張り流水の障害となるアカメヤナギを長年にわたり放置されたなどの維持管理方法に問題があったのではないかと聞いております。 管理も楽しみながら地域住民と行政がいっしょになって行い、川に親しみをもてるすばらしい場所であってほしいと思います。 管理は国交省さんだけの責任ではなく、市民もいっしょによりよい方向を考え、協力していく形へと、全国が変わっていきつつあります。 ぜひよろしくをお願いいたします。	<ul style="list-style-type: none"> 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。（補修工法参照） 上堰のアカメヤナギ等の樹木については、今年の3月に樹木刈り取りを行ったところであり、今後も継続的に実施する予定です。 第十堰の取り組みについては、情報共有はもとより、住民の方々の参加により、形状把握調査や樹木刈り取りを行ってきたところです。今後ともこのような取り組みについては前向きに検討していきます。
11	63	男	概ね良いと思うが、上流側平型コンクリートブロック底面には吸い出し防止材が必要ではなからうか。 またブロックは連結されているが袋詰め玉石（2t）は単体ですか。 木杭については松材は入手困難と思われるので間伐材にヒバ林等より抽出した植物性のもので防腐処理した物を使用するので良いのではないですか。	<ul style="list-style-type: none"> 平型コンクリートブロック底面の土砂が吸い出され、ブロックが沈下することを防ぐため、吸い出し防止材については、実施します。 袋詰め玉石については、ロープ（ポリエステル製）による連結を実施します。 木杭は、既設使用材料を考慮し、入手可能な松杭を使用することとしています。なお、上堰の青石張りの箇所に松杭は使用され、杭としての役割を果たしています。
12		女	先日テレビの放送で説明がありました第十堰、上堰の補修原案を聞きました。いとも簡単な応急処置に驚きを感じています。 250年の歴史を持っている、又、徳島県の遺産とも言うべき第十堰の風格。250年余り立派に維持して来ましたが先人の知恵を生かす工法での補修をどうぞ考えてほしいと思います。 コンクリートで固めてしまえば、ごく簡単でしょう。費用も掛からず、しかし近い将来、再度破損してくる事は確実です。 どうか十分にご検討をお願いいたします。	<ul style="list-style-type: none"> 今回の補修原案を作成するにあたっては、形状把握調査結果を基に、材料や施工方法等を十分検討し、学識者の意見も聴いた上で河川管理者として最適案を提示したものです。 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。（補修工法参照） なお、既設の青石張と補修工法が違う点は、既設の青石張の損壊部分を練石張で施工する点です。したがって、既設の青石張りと同じように練石張部分以外は従前どおりの構造です。 木杭は、既設使用材料を考慮し、松杭を使用することとしています。なお、上堰の青石張りの箇所に松杭は使用され、杭としての役割を果たしています。

番号	年齢	性別	意見の内容	回答
13	51	男	<p>1. 技術的選択理由等について この実施方法を選択された理由、根拠を開示してください。以下具体的にお応え下さい。</p> <p>(1) 伝統工法の青石組みのところでも壊れていないところがあります。ほとんどが壊れているのではなく、なぜ、壊れていないところがあるのでしょうか？科学的、技術的な説明して下さい。</p> <p>(2) 今回の補修方法について、なぜ、伝統の青石組みで行わないのでしょうか？その科学的かつ技術的な理由を具体的かつわかりやすく教えて下さい。現代においては、特に上堰は、文化的、技術的にも、将来にわたる遺産としての高い価値があると考えています。</p> <p>(3) 今回の補修案は、単一の方法しか示されていません。なぜ単一の方法しか示されていないのでしょうか？</p> <p>(4) 単一の案を提案するにしても、その経緯や理由が十分書かれていません。その理由をご説明下さい。</p> <p>(5) 単一の案に絞り込むまでに、どのような案を検討して、どのような分析により今回の案提示に至りましたか？</p> <p>(6) 費用対効果の説明が今回の補修案には一切書かれていないので、説明して下さい。</p> <p>(7) 地域の歴史性、想い、川の技術文化や景観、そのような観念の価値に対してどのような対応をしているのか、見解をもしくはご説明ください。</p> <p>(8) 今回質問したことへの回答が、いつどのような形で行われるのか、示して下さい。</p> <p>(9) 回答への再質問をどのように受け付けるのか、示して下さい。</p> <p>(10) 今回の補修案への意見がどのように取り扱われるのでしょうか、具体的に教えて下さい。</p> <p>2. よりよい第十堰を目指して、基本的な要望をお伝えします。どの様に対処してされるか、ご回答をお願いします。</p> <p>(1) 吉野川の水辺風景との調和や美しい青石組みの保全・復元という視点で行って欲しいです。</p> <p>(2) 魚類の遡上・降下を容易にするといったこと等、第十堰による自然環境への影響の軽減を図っていただきたいです。</p> <p>(3) 計画策定に際しては、伝統工法の専門家、優れた実務者をはじめ、魚類などの専門家を学識者に加えるようにし、様々な観点から検討し最良の補修計画をして欲しいです。そのために住民側（たとえば吉野川シンボや吉野川みんなの会、あるいは個人）からの様々な専門的知見をもっている人が参加ができるような計画策定委員会をつくって欲しいです。</p> <p>(4) 青石組みの保全・復元に、石組み技術の継承・伝承するため、地域の職人と意識を育てるような発注をすることを希望します。</p> <p>3. 補修箇所に対する意見</p> <p>(1) 上堰青石張補修箇所 原案の「コンクリートが見えないようにする」は必ずしも賛成できません。原形に近い形態にし、技術をいかして欲しいです。よりよい石張、石組みとするため以下の検討をお願いします。 石組みの専門家の指導を受け、既存の青石張り、組みをできる限り再現する。 石と石の噛み合わせを基本にする。場合によっては、コンクリートは補助的に使用する。伝統工法を技術的・科学的に評価し、未来への技術的な遺産として、生かしていける工法を展開する機会にして欲しい。 魚類（鮎）の生息・遡上への配慮を行う。 石組みの壊れた部分では水が集まって瀬のような水環境となっており、結果として鮎などの魚道としてさらに餌場（石に鮎のハミ跡）ともなっていた。このことから、補修に当たっては中央部を若干低くするなど、越流水に多様な流れ（水環境）が生じるようにする。</p> <p>(2) 下堰平張りコンクリート もともとは突起付き平張りコンクリートで、突起は越流水の流速を抑えるとともに遡上する鮎などの休憩場でもあった。このため、補修時においても同様な観点で環境への配慮は最低限行ってもらいたい。さらには景観への配慮も併せて行う。いい景観とは、地域の風景、自然の営みの連続性を切らないようにすること、人間の自然の恵みの感謝と畏敬の念を最大限に表現できたものにとすること、理解しています。 景観への配慮の観点からは、上堰と同じようにコンクリートの見えない練り石張りとする。できる限り、石張りより石組みという表現になるようになるよう努力する。大きな石を使うことが現代では可能です。 素材材料は、全て地元産出のものとし、風景の連続性を意識した計画と施工を行う。特にこの観点を大事にして欲しい。 最低の対策として既存の突起と同じ間隔で、粗石（丸みがありかつ長楕円形の石）を設置する。 既存の突起は角があるため、剥離流が発生し問題がある。また、粗石の裏側で水深を確保するため窪みをつけること。 コンクリートブロックの根固めに袋詰め玉石を使用しているが、摩耗が激しいこと密度が小さく流されやすいといった問題や編み目が細かすぎ（一定の大きさ）で魚類の生息等に問題があると考えられる。このため、再利用はやむを得ないとしても新規の設置はやめて、2トン以上の捨て石に変更する。</p> <p>(3) 平型コンクリートブロック（上堰及び下堰） 連結金具が表面に来るとゴミが引っかかり見苦しくなるため、原案にあるように連結部が上面に来ないようにする。 表面に植石（粗石＝自然石）をおこなって、景観への配慮と同時に鮎などの餌場となるようにする。</p> <p>4. 工事に関して 重機搬入の際には、現状の石組みを破損しないように配慮をお願いします。</p> <p>以上、寄せられた様々な質問とご回答を、きちっと発表させていただくと同時に、意見を検討していただき、安全でより美しく自然豊かな吉野川と地域づくりのために、応えていただくよう、切に願います。補修は、吉野川と地域の営みと歴史を感じ、地球環境時代に未来に引き継げる遺産として捉えられる知恵とソフトをつくっていく持続可能な事業として位置づけ、官、民、住民と一緒にやってつくっていけることを希望します。</p>	<p>1(1) 第十堰周辺における洪水の流れや構造物の形状、構成材料などが非常に複雑であることから壊れている箇所、壊れていない箇所の原因を科学的、技術的に説明することは困難です。</p> <p>(2) 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練り石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。 (補修工法参照)</p> <p>(3)(4)(5) 今回の補修原案を作成するにあたっては、形状把握調査結果を基に、材料や施工方法等を十分検討し、学識者の意見も聴いた上で河川管理者として最適案を提示したものです。</p> <p>(6) 今回は、破損箇所の補修であることから費用対効果の評価は行っていません。</p> <p>(7) 景観に対しては周辺の青石張と調和を保つように配慮しています。 今回は、破損箇所の拡大を防ぐための補修であり、抜本的対策を伴う意見については「抜本的な第十堰の対策のあり方」を検討する場で検討していきます。</p> <p>(8) 今回頂いた、ご意見及び回答については、記者発表及び当事務所ホームページにより公表します。</p> <p>(9) 第十堰の補修原案については、パブリックコメントの手法により、幅広く住民の方々からのご意見をお聴きするため、記者発表及び当事務所ホームページにて公表を行ってきたところです。 これら手続きを通じ、住民の皆様から広くご意見を聴くことができたと考えています。頂いた意見については、できる限り反映しており、記者発表及び当事務所ホームページ上で回答しているため、再質問については予定していません。</p> <p>(10) 多くの住民が関心を寄せる第十堰については、住民の多様な意見を聴きながら補修についての工法を決定することが重要であると認識しています。 今回の補修原案に関する意見は、回答で述べたとおり、全ての意見を補修工法に反映することはできませんでしたが、できる限り補修工法に反映しています。</p> <p>2(1) 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練り石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。 (補修工法参照)</p> <p>(2) 今回は、破損箇所の拡大を防ぐための補修であり、抜本的対策を伴う意見については「抜本的な第十堰の対策のあり方」を検討する場で検討していきます。</p> <p>(3) 第十堰の補修原案については、パブリックコメントの手法により、幅広く住民からのご意見をお聴きするため、記者発表及び当事務所ホームページにて公表を行ってきたところです。 これら手続きを通じ、住民の皆様から広くご意見を聴くことができたと考えています。</p> <p>(4) 補修に先立ち、石工職人等の青石張技術を勉強するため職員の講習会を行い、公表した補修工法を基に、極力表面にコンクリートが見えない青石を敷き詰めた青石張（練り石張）を実施したいと考えています。</p> <p>3(1) 補修に先立ち、石工職人等の青石張技術を勉強するため職員の講習会を行い、公表した補修工法を基に、極力表面にコンクリートが見えない青石を敷き詰めた青石張（練り石張）を実施したいと考えています。 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練り石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。 (補修工法参照) 今回は、破損箇所の拡大を防ぐための補修であり、抜本的対策を伴う意見については「抜本的な第十堰の対策のあり方」を検討する場で検討していきます。</p> <p>(2) 下堰の平張コンクリート部については、平張コンクリート表面に突起物を付けると、既設の平張コンクリートに見られるように突起物が再度破損するおそれがあるため、設置せず、コンクリートにより補修します。(写真-5,6) 袋詰め玉石は、流水に流されない重量とし、屈撓性があるため、平型コンクリートブロック前面の土砂が洗掘された場合に、河床の形状に応じ変形して流水を適度に受け流し流水から受ける力を少なくすることができ、根固めの役割を果たします。 袋詰め玉石は、衝撃及び小石などの摩耗や耐久性に対して十分な強度を持ち合わせたものです。</p> <p>(3) 連結金具が表面にでないよう配慮します。 平型コンクリートブロックについても青石の植石により景観に配慮します。</p> <p>4. 施工に際しては、既設の青石張を破損しないように配慮します。</p>

番号	年齢	性別	意見の内容	回答
14		男	<p>第十堰の補修について早期に原案が示され、さらに意見を募集することで、補修案に市民の要望を取り入れようとする事に心から敬意を申し上げます。 また、堰の現状把握では専門学者による丁寧な説明がなされ、直接意見交換が住民参加という形で行われ非常に有意義なものでした。 今後とも専門家による説明や意見交換の場をつくって、より多くの市民が納得できるような計画づくりに取り組んで頂きますようお願いいたします。 当会として、以下の意見を申し上げますので、可能な限り補修案に反映して頂きますようお願いいたします。</p> <p>1. 基本的な考え方・・・よりよい補修案づくりに向けて 補修原案では自然環境や景観面での質的低下が生じるものと考えます。以下の要望を取り入れて頂くとともに、簡略なもので結構ですから、被災前と補修後の環境影響評価も併せて行い、被災前より環境がよくなるような補修案づくりを行って下さい。 1) 吉野川の水辺風景との調和や美しい青石組みの保全・復元という視点で行う。 2) 魚類の遡上・降下を容易にするといったこと等、第十による自然環境への影響軽減を図る。 3) 計画策定に際しては、酒田河川国道事務所で行われた立谷沢川の床止めのように魚類などの専門家を学識者に加え、さらに市民も参加し様々な観点から検討された最良の補修計画とすること。</p> <p>2. 補修箇所に対する意見 1) 上堰青石張補修箇所 原案の「コンクリートが見えないような練石張」はこれまで下堰で行われてきた練石張に比べると良い方法と考えるが、さらによりよい石張（第十）とするため以下の対応をお願いします。 また、上堰には魚道がなく渇水期には堰上下流で分断が生じていることから、水環境をつなげる（コリドー=魚道）ことを検討し、自然環境への配慮も併せて行ってください。 石組みの専門家の指導を受け、既存の青石張りをできる限り忠実に再現する。 石張の強度は石と石をしっかりと噛み合わせることで得るようにし、コンクリートは補助的に利用すること。 この点においても石組みの専門家の指導が必要である。 魚類（鮎）の生息・遡上への配慮のため、魚道機能を有する構造で行うこと。 石組みの壊れた部分では水が集まって瀬のような水環境となっており、結果として鮎などの魚道として、さらには餌場（石に鮎のハミ跡）ともなっていた。 このことから、補修に当たっては補修部分の中央部を川の縦断方向に低くし、越流水深が中央部で深くさらに多様な流れ（水環境）が生じるような魚道を設けること。</p> <p>2) 下堰平張りコンクリート もともとは突起付き平張りコンクリートで突起は越流水の流速を抑えるとともに遡上する鮎などの休憩場となっていた。このため、補修時においても同様な観点で環境への配慮を最低限行ってください。 さらには景観への配慮も併せて行うことを希望します。 景観への配慮の観点からは、上堰と同じようにコンクリートの見えない練り石張りとする。 最低の対策として既存の突起と同じ感覚で、粗石（丸みがありかつ長楕円形の石）を設置する。 既存の突起は角があるため、剥離流が発生し問題がある。また、粗石の裏側で水深を確保するため窪みをつけること。</p> <p>3) 平型コンクリートブロック（上堰及び下堰） 被災前は捨て石が置かれていた場所で、原案の平型コンクリートに置き換えられると景観、ピオトープ（生息場）とも悪化するようになります。このため、環境の質的低下を防ぐため、以下の対策を行ってください。 連結金具が表面にくるとゴミが引っかかり見苦しくなるため、原案にあるように連結部が上面に来ないようにする。 表面に植石（粗石=自然石）をおこなって、景観への配慮と同時に鮎などの餌場となるようにする。 これは植石により水流や日照、シルトの付着状況に変化が生まれることで、餌場に適した部分ができることからです。 実際に吉野川でも異形ブロックの特定の面（水流の当たる面であったり、垂直面であったりなど流況によって変化）が餌場となっていたが、平型ブロックでは均質の環境となるため、ある特定の条件、まれの都合しか餌場となり得ないと考えます。 捨て石の場合には餌場（良好な鮎釣り場）となっています。 これらを考慮すると植石が現状（捨て石（=流出）が行われていた）の環境の質を低下させない最低限の対策となります。 コンクリートブロックの根固めに袋詰玉石を使用しているが、摩耗が激しいこと密度が小さく流れやすいといった治水上の問題や編み目が細かすぎ（一定の大きさ）で魚類のなかでもナマスなどの大型魚の生息等には適さないといった環境上の問題があると考えられる。このため、再利用はやむ得ないとしても新規の設置はやめて、2トン以上の捨て石に変更して下さい。</p>	<p>1. 1) 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。 （補修工法参照） 2) 今回は、破損箇所の拡大を防ぐための補修であり、抜本的対策を伴う意見については「抜本的な第十堰の対策のあり方」を検討する場で検討していきます。 3) 第十堰の補修原案については、パブリックコメントの手法により、幅広く住民からのご意見をお聴きするため、記者発表及び当事務所ホームページにて公表を行ってきたところです。 これら手続きを通じ、住民の皆様から広くご意見を聴くことができたと考えています。</p> <p>2. 1) 補修に先立ち、石工職人等の青石張技術を勉強するため職員の講習会を行い、公表した補修工法を基に、極力表面にコンクリートが見えない青石を敷き詰めた青石張（練石張）を実施したいと考えています。 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。 （補修工法参照） 今回は、破損箇所の拡大を防ぐための補修であり、抜本的対策を伴う意見については「抜本的な第十堰の対策のあり方」を検討する場で検討していきます。</p> <p>2) 下堰の平張コンクリート部については、平張コンクリート表面に突起物を付けると、既設の平張コンクリートに見られるように突起物が再度破損するおそれがあるため、設置せず、コンクリートにより補修します。（写真-5、6）</p> <p>3) 連結金具が表面にでないよう配慮します。 平型コンクリートブロックについても青石の植石により景観に配慮します。 袋詰玉石は、流水に流されない重量とし、屈撓性があるため、平型コンクリートブロック前面の土砂が洗掘された場合に、河床の形状に応じ変形して流水を適度に受け流し流水から受ける力を少なくすることができ、根固めの役割を果たします。 袋詰玉石は、衝撃及び小石などの摩耗や耐久性に対して十分な強度を持ち合わせたものです。</p>
15	48	女	<p>第十堰の良さの一つに青石組みなので、そのすきまを水が透過して浄化されることがあります。コンクリートを使うと、すきまを埋めてしまうので、なるべく使わないで、青石組みを元どおりに直して欲しいと思います。 また、大きな重機が青石の上を通ると青石が割れるので、重機が青石の上にはいらないように工事していただきたいと思います。</p>	<p>・ 既設の青石張と補修工法が違う点は、既設の青石張の損壊部分を練石張で施工する点です。したがって、既設の青石張りと同じように練石張部分以外は従前どおりの構造です。 ・ 施工に際しては、既設の青石張を破損しないように配慮します。</p>
16	25	男	<p>よりよい吉野川づくりに向けて、日頃からご尽力されている事に心から敬意を表します。 意見を述べさせていただきます。 1. 補修計画をたてるにあたって、意見を聞いた学識者のお名前、専門分野、第十堰全体への評価を明らかにしていただきますようお願いいたします。 2. 原案を公表する際は、HP、マスコミ（パブリックコメント）での広報では不十分と思われます。メディアを通じた説明ではなく、顔を付き合わせた説明をお願いいたします。 3. 意見の策定にあたっては、国土交通省、学識者だけでなく、住民も参加した上での話し合いを要望します。 4. 箇所に関しては、青石張りを基本として原型復旧につとめていただきたい。コンクリートの使用はあくまで、補助的なものにしていただきたい。 以上、長々と述べさせていただきます。</p>	<p>1. 補修原案作成にあたっては、地盤工学、河川工学、コンクリート工学の学識者の方に意見を聴いています。 ・徳島大学 工学部建設工学科 山上教授(地盤工学) ・徳島大学 工学部建設工学科 岡部教授(河川工学) ・徳島大学 工学部建設工学科 橋本教授(コンクリート工学) ・徳島大学 工学部建設工学科 上田助教授(コンクリート工学)</p> <p>2. 3. 第十堰の補修原案については、パブリックコメントの手法により、幅広く住民からのご意見をお聴きするため、記者発表及び当事務所ホームページにて公表を行ってきたところです。 これら手続きを通じ、住民の皆様から広くご意見を聴くことができたと考えています。</p> <p>4. 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。（補修工法参照）</p>

番号	年齢	性別	意見の内容	回答
17	80	男	<p>1. 箇所 について 青石張りの基礎には礫石を詰めた籠枠を用いこれらを連結して大きな重量体とする堰上流の左右の岸の高水敷または堤防の外側に設けたアンカーに連結した長いワイヤーを補修箇所の上部に延伸しこれによって籠枠及び平型コンクリートブロックを係留する。アンカーには多数のコンクリートブロックなどを連結する。</p> <p>2. 箇所 について コンクリートブロック流失箇所には籠枠を設置し連結する。 これらの籠枠および袋詰玉石を前同様の方法で上流から延伸したワイヤーロープで係留する。 (図・1参照)</p>	<p>1. 上堰の青石張りは、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張りにより補修をします。また、周辺の青石張りと調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照) ご意見の、アンカーとワイヤーによる方法は洪水時において高水敷や堤防への影響が大きいと考えられます。</p> <p>2. 下堰の補修は、原型復旧を基本として、コンクリート及びコンクリートブロックによる補修を行います。 ご意見の、アンカーとワイヤーによる方法は洪水時において高水敷や堤防への影響が大きいと考えられます。</p>
18	44	男	<p>国交省としては最先端の技術で進めてゆきたいのですが、最新の技術が必ずしも最高・最上の技術だとは思いません。数年後にすたれる最新技術も多いのです。どうぞ吉野川を最新技術の実験場にしないで下さい。これからは環境を傷つけない技術をこそが、最優先されるべきです。 それは、吉野川では青石の石組み工法です。この古い技術を復活させ広めていくことは国交省にとっても大きなメリットだと思います。 青石堰を失うことは住民にとってとてつもない喪失感を生じるでしょう。そして国交省に対するうらみも莫大でしょう。その不信心と不利益は想像できますか。しかし、青石堰を残すことは、今の日本に明るい希望の光をともすことだと確信しています。そして、後世の人々からも感謝され高く評価される仕事だと思っています。青石による完全補修をお願い申し上げます。</p>	<p>・ 上堰の青石張りは、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張りにより補修をします。また、周辺の青石張りと調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照) ・ 既設の青石張りと補修工法が違う点は、既設の青石張りの損壊部分を練石張りで施工する点です。したがって、既設の青石張りと同じように練石張り部分以外は従前どりの構造です。</p>
19	56	男	<p>第十堰については、早急に現状調査を実施し、その結果等を踏まえ、抜本的な対策とは別に必要な補修を適宜行なうこととします。「抜本的な第十堰の対策のあり方」については、吉野川水系を現状よりも少しでも良くするため、可動堰にはこだわらずに、これまで検討していない可動堰以外の方法について検討を進め、あらゆる選択肢について評価を行なって結論を得たいと考えています。と記載されています。 よって 1. 補修の考え方について 今回の補修の考え方は、原型復旧を基本として破損箇所の拡大を防ぐとともに、補修にあたっては再度の被災を防ぐこととしており妥当と考えます。</p> <p>2. 上堰の補修について 堰本体の青石張りは、木杭で組まれており、またコンクリートの練り張りとなっており、流水の影響を受ける観点から適切と考えます。 堰上流側の平型コンクリートブロックは、ブロック間の隙間ができます。このため、コンクリートブロックの下に吸い出し防止シートを施工するとブロックの隙間よりの土砂流出を防ぐことができると考えます。 また、平型コンクリートブロック上流端の袋詰め玉石は1個ではなく2個とし連結をしておくこととブロック上流端の洗掘を防止することができより安定すると考えます。</p> <p>3. 下堰平張りコンクリートの補修について 堰本体がコンクリートであることから流失箇所については、コンクリート張ることと周辺との強度のバランスが保てると考えます。 堰上流側の平型コンクリートブロックは、ブロック間の隙間ができます。このため、コンクリートブロックの下に吸い出し防止シートを施工するとブロックの隙間よりの土砂流出を防ぐことができると考えます。 また、平型コンクリートブロック上流端の袋詰め玉石は1個ではなく2個とし連結をしておくこととブロック上流端の洗掘を防止することができより安定すると考えます。</p>	<p>1. 今回の補修の考え方は、原型復旧を基本として破損箇所の拡大を防ぐとともに、補修にあたっては再度の被災を防ぐ観点から洪水に対して一定の強度を保つことにしています。</p> <p>2. 3. 平型コンクリートブロック底面の土砂が吸い出され、ブロックが沈下することを防ぐため、吸い出し防止材については、実施します。 袋詰玉石は、基本的には1列を考えていますが、現地の河床の形状に合わせて設置します。また、ロープ(ポリエステル製)による連結を実施します。</p>
20	27	女	<p>このたび、心配していた破損箇所を補修していただけることになりましたこと、大変うれしく思います。 私の基本的な考えは、250年続いてきた青石畳の工法・文化を次世代にも変わらぬままつないでいきたいということです。大人だけでなく、子どもたちもまた、見て・触って・遊んで・感じて、そのすばらしさを実感しています。 補修原案を拝見し、いくつか思うままに意見を述べさせていただきます。 【補修の考え方】に、原型復旧を基本として・・・ とありますが、原型復旧を基本ということでしたら、コンクリートを使わない石組み工法での補修をしていただけないでしょうか。石組みでの補修は不可能ということであれば、具体的にその理由をお聞かせください。 学識者とはどのような分野での学識者なのでしょう？ 魚類の生態や自然工法にお詳しい方はその中にいらっしゃるのでしょうか？偏った方面からのみではなく、様々な方面の方から意見をお聞きし、また現時点のことだけでなく、今後のことなどもふまえ、総合的に考えたいと思います。 今回の原案にご協力いただいた学識者のお名前をお聞かせください。 応急処置の際、どのような機械・方法で作業がなされるのでしょうか？以前柳刈り取りの際に、重機で石畳が破損している部分がいくつも見受けられました。手間がかかることだとは思いますが、極力負荷がかからず現存する石畳が崩れないような方法をお考えください。今の状態でどれだけの重さが加われば破損の恐れがあるのか、十分にお調べになってから作業を行っていただきたいと思えます。 河川管理を住民参加で！ということでしたら、このようなHP上でのやりとりだけでなく、直接お話ができるような場を設けていただけることが望ましいと考えます。さまざまな分野の学識者と住民が参加し、直接意見交換ができるような場をつくってほしいのか？ なぜ不可能なのか？なぜそうするのかを具体的にお聞きすることができず、一方向のように思います。</p> <p>以上、ご検討いただけますようよろしくお願いいたします。</p>	<p>上堰の青石張りは、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張りにより補修をします。また、周辺の青石張りと調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照) 補修原案作成にあたっては、地盤工学、河川工学、コンクリート工学の学識者の方に意見を聴いています。 ・徳島大学 工学部建設工学科 山上教授(地盤工学) ・徳島大学 工学部建設工学科 岡部教授(河川工学) ・徳島大学 工学部建設工学科 橋本教授(コンクリート工学) ・徳島大学 工学部建設工学科 上田助教授(コンクリート工学) また、今回は破損箇所の補修であるため、魚道については補修は行いません。 今回は、破損箇所の拡大を防ぐための補修であり、抜本的対策を伴う意見については、「抜本的な第十堰の対策のあり方」を検討する場で検討していきます。 施工に際しては、既設の青石張りを破損しないように配慮します。 第十堰の補修原案については、パブリックコメントの手法により、幅広く住民からのご意見をお聴きするため、記者発表及び当事務所ホームページにて公表を行ってきたところです。 これら手続きを通じ、住民の皆様から広くご意見を聴くことができたと考えています。</p>

番号	年齢	性別	意見の内容	回答
2 1	1 5	女	<p>「第十堰の補修原案」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと分かりやすく説明してほしい。どんな人でもわかるように！ ・表面だけ青石、絶対反対。第十堰は徳島の誇り！表面だけ青石にしたら意味がない。 <p>昔ながらのつくりをできるだけ維持してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既設の青石張と補修工法が違う点は、既設の青石張の損壊部分を練石張で施工する点です。したがって、既設の青石張りと同じように練石張部分以外は従前どりの構造です。 ・ 今後とも、住民の方々に分かりやすく説明するように努力します。
2 2	2 1	女	<p>余計な補修はする必要ないと思います。</p> <p>今のままで何十年も問題なく過ごしてきたのに、どうしてわざわざ莫大な費用を使って、水は汚れるし生態系も壊してしまうような工事をするのかわかりません。</p> <p>それにコンクリートの寿命は短いので、今後もずっと補修工事をしつづければならなくなります。</p> <p>コンクリートで補修された川なんて誰も望んでいません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の第十堰は、何十年も現在のままの姿を保持してきたものではありません。これまでに、度重なる洪水により度々被災し、復旧を繰り返した結果、今の第十堰となったものです。（図 - 2、写真 - 7、8 参照） ・ 昨年度、第十堰の形状把握調査を実施したところ、このまま放置すると今後の洪水により、破損箇所が拡大するおそれのある箇所を確認しました。その中で破損の大きい箇所から段階的に補修を行うこととしています。補修は、第十堰の機能を維持していくために必要なものです。また、大幅に河川環境を変えるような工事ではありません。なお、施工にあたっては品質を確保するため、コンクリートは十分な耐用年数を有します。

参考

番号	年齢	性別	意見の内容	回答
参考1	40	男	<p>私たちの研究グループでは、平成15年度に河川環境管理財団の助成により、吉野川沿岸の第十・佐野塚の2集落を対象に、河川空間の変遷と人々の川の関わりの変化を調査いたしました。河川国道事務所の方々には、その際いろいろとご教示をいただきお世話になりました。あらためてお礼申し上げます。</p> <p>さて、このたび公表されました第十堰の現状調査報告と補修案を拝見いたしました。地域の声を聞き環境や地域景観にも配慮されたすばらしい取り組みだと思います。さらに、平成11年河川審議会の答申にある河川伝統技術という側面が、独特の青石組みの見られる上堰の補修案ではどのように反映されるのか、大きな関心を寄せています。</p> <p>そこで意見募集を機会に以下の10点についておたずねすることとなりました。ご教示のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>(1) 上堰は、松杭の格子に青石を突き組んでできた独特の肌理が特徴だと考えます。河川伝統技術という観点からすれば、補修方法として、この伝統的な青石組も選択肢のひとつとして挙げられるのではないかと思うのですが、公表された補修案では触られていないようです。今回の補修案で伝統的な青石組が用いられていない理由として、もし科学的、技術的な根拠があれば、わかりやすくご説明くだされば幸いです。</p> <p>(2) 昨年の洪水の後、上堰を歩いてみましたが、伝統的の青石組でも壊れていない箇所も拝見しました。どのような差や違いにより、壊れている所と壊れていない所が伝統的の青石組で生じるのか、もし科学的、技術的な根拠があれば、わかりやすくご説明くだされば幸いです。</p> <p>(3) 最近、施策や計画の現場では複数の代替案の検討ということがよく行われるようになりました。今回の補修案では1案のみを公表された理由や経緯についてお聞かせくだされば幸いです。</p> <p>(4) また、公表された補修案に至るまでに、他にどのような補修方法を検討されましたでしょうか。</p> <p>(5) さらに、他の補修方法を検討された場合、その検討の過程で、どのような分析や評価により、今回公表された補修方法とされたのでしょうか。可能であれば、その詳細な経緯をお示しください。</p> <p>(6) 今回公表いただいた補修案や、検討された代替案について、費用対効果はいかかでしょうか。可能な範囲で結構ですが参考までに、今回の補修案では、おおよそどのくらいの施工費用を予定され、どの程度の強度や耐用年数を想定されているか、お示しください。</p> <p>(7) 今回募集され寄せられた全ての意見や質問へ、いつ頃どのような形で回答下さる予定でしょうか。また、寄せられた意見や質問と、それらに対する回答を、公開される予定はありますでしょうか。</p> <p>(8) 寄せられた意見や質問に対する回答への再質問を受け付けられる予定でしょうか。またその場合、どのような形でしょうか、お示しください。</p> <p>(9) 今回募集され寄せられた意見や質問は、どのような形で補修案に反映されますでしょうか。具体的にお聞かせくだされば幸いです。</p> <p>(10) 最後にこれは提案といえるかもしれませんが、地域住民の方々から出された意見や提案が反映され最終的に補修工法が決定されるプロセスや、さらに言えば補修作業自体に、可能な限り住民の方々に関われるような機会や仕組みをつくるということに関してはどのようにお考えでしょうか。</p> <p>以上、長文につき恐縮ですが、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>	<p>(1) 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照)</p> <p>(2) 第十堰周辺における洪水の流れや構造物の形状、構成材料などが非常に複雑であることから、壊れている箇所、壊れていない箇所の原因を科学的、技術的に説明することは困難です。</p> <p>(3)(4)(5) 今回の補修原案を作成するにあたっては、形状把握調査結果を基に、材料や施工方法等を十分検討し、学識者の意見も聴いた上で河川管理者として最適案を提示したものです。</p> <p>(6) 今回は、破損箇所の補修であることから費用対効果の評価は行っていません。また、現時点では費用は算出していません。なお、洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように補修をします。</p> <p>(7) 今回頂いた、ご意見及び回答については、記者発表及び当事務所ホームページにより公表します。</p> <p>(8) 第十堰の補修原案については、パブリックコメントの手法により、幅広く住民の方々からのご意見をお聴きするため、記者発表及び当事務所ホームページにて公表を行ってきたところです。これら手続きを通じ、住民の皆様から広くご意見を聴くことができましたと考えています。頂いた意見については、できる限り反映しており、記者発表及び当事務所ホームページ上で回答しているため、再質問については予定していません。</p> <p>(9) 多くの住民が関心を寄せる第十堰については、住民の多様な意見を聴きながら補修についての工法を策定することが重要であると認識しています。今回の補修原案に関する意見は、回答で述べたとおり、全ての意見を補修工法に反映することはできませんでしたが、できる限り補修工法に反映しています。</p> <p>(10) より多くの流域住民の方々からご意見を聴取し、その意見をできる限り反映して補修工法等を決定するプロセスは大切と考えています。また、昨年度実施した「形状把握調査」「樹木刈り取り」の際には、住民の方々と一緒に調査や作業を行いました。今後もこのような取り組みを前向きに検討していきます。</p>
参考2	40	女	<p>見せかけだけのコンクリートによる修復は止めてください。江戸時代から今日まで生きている健全は伝統的工法を見習うべきです。昭和以降の土木技術の過信や、今までの水量予測の誤りを反省すべきではないでしょうか。大切な自然環境と私たちの税金の使われ方に大きな疑問が残ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上堰の青石張は、度重なる洪水等の影響により破損しています。洪水の度に被災するような構造では河川管理上問題があるため、洪水に対して一定の強度を保つように青石の間にコンクリートを充填した練石張により補修をします。また、周辺の青石張と調和を保つよう配慮し、極力表面にコンクリートが見えないように青石を敷き詰めます。(補修工法参照) 補修に先立ち、石工職人等の青石張技術を勉強するため職員の見習い講習会を行い、公表した補修工法を基に、極力表面にコンクリートが見えない青石を敷き詰めた青石張(練石張)を実施したいと考えています。

上表については、期限締切後に提出されたものである。